2022 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域　選抜試験（夏季）
博士前期課程（一般・社会人）（10 月入学）

科目　　＜小論文＞

時間　　１０：００～１２：００

注意事項：　①解答は，配布された答案用紙に行うこと。不足した場合は，手を挙げて申し出て下さい。
②答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を，「氏名」欄に「氏名」を記入してください。
③監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他，監督者の指示に従うこと）。

受験番号	一般 ・ 社会人	氏名

以下は，2018年（平成30年）4月に策定された日本の『第5次環境基本計画』からの一部抜粋である。以下の文書を読み，次の(1)～(3)に答えなさい。

環境は，大気，水，土壌，生物等の間を物質が光合成・食物連鎖等を通じて循環（物質・生命の「循環」）し，生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っており，人間もまた，この環境の一部である。しかしながら，経済活動に伴い，環境の復元力を超えて資源を採取し，また，環境に負荷を与える物質を排出することによって，この微妙な均衡を崩してきた。この均衡の崩れが気候変動や生物多様性の損失という形で顕在化している。今こそ，自然の摂理と共に生きた先人の知恵も受け継ぎつつ，新たな文明社会を目指し，新しい試みに果敢に挑戦し，イノベーションをあらゆる観点から積極的に生み出す取組を強化することにより，ＳＤＧｓを踏まえた持続可能なものへと変えていくことが求められている。

私たち日本人は，豊かな恵みをもたらす一方で，時として荒々しい脅威となる自然と対立するのではなく，自然に対する畏敬の念を持ち，自然に順応し，自然と共生する知恵や自然観を培ってきた。このような伝統も踏まえ，情報通信技術（ＩＣＴ）等の科学技術も最大限に活用しながら，経済成長を続けつつ，環境への負荷を最小限にとどめ，健全な物質・生命の「循環」を実現するとともに，健全な生態系を維持・回復し，自然と人間との「共生」や地域間の「共生」を図り，これらの取組を含め「低炭素」をも実現することが重要である。このような循環共生型の社会（「環境・生命文明社会」）が，我々が目指すべき持続可能な社会の姿であるといえる。本計画では，環境政策を通じ「持続可能な社会」を構築し，我が国こそが先んじて「課題解決先進国」になるという，未来志向の捉え方により，①山積する課題の解決に取り組んでいく。

（中略）

国全体で持続可能な社会を構築するためには，各々の地域が持続可能である必要がある。このため，②各地域は，その特性を活かしながら，環境・経済・社会の統合的向上に向けた取組の具体化を自立的に進めていくことが求められるが，広域に渡って経済社会活動が行われている現代においては，各地域で完全に閉じた経済社会活動を行うことは困難であり，各地域間で補完し合うことも重要になってくる。これを踏まえ，本計画では，各地域がその特性を活かした強みを発揮し，地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ，③それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と共生・対流し，より広域的なネットワークや経済的つながりを構築していくことで，新たなバリューチェーンを生み出し，地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かす「地域循環共生圏」を創造していくことを目指す。

(1) 下線部①にいう山積する課題として考えられるものを３つ挙げたうえで，それぞれについて簡潔に説明しなさい。

(2) 下線部②の例としてどのような取組みが考えられるかを論じなさい。自分の専門分野に引き付けて論じても良い。

(3) (1)で挙げた課題のなかから1つ以上を選択したうえで，その解決に下線部③にいう「地域循環共生圏」の創造がどのように貢献し得るかについて論じなさい。自分の専門分野に引き付けて論じても良い。